

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

廣 田 知人からお誘いをいただき、滑稽という二文字に惹かれて二つ返事で入会させていただきました。月に一度の句会では、八木会長の軽妙な話術こそ滑稽そのものではなからうかと、楽しいご指導に新しい世界が展開された思いです。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

廣 田 人間の深層心理を笑いに転じてクスッと笑ってしまう意外性に惹かれます。読む人の心まで明るく楽しくさせてくれるところもいいです。会報の特選句や講評も思わず笑ってしまいます。共感し合える心の余裕こそが滑稽の真髄と思います。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

廣 田 季語を生かしながら、十七音で機知やユーモア、オリジナルな想いを紡ぐ非常に難度の高いものだと思います。老いて枯渇してゆく脳細胞を潤し、硬くなる頭の柔軟剤になると思いますね。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

廣 田 折々の心の風景が記録として遺されますし、新しいことに挑戦することで、老化防止の一つの手段となっていることです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

廣 田 まだ、入会して日も浅く、コツをお伝えすることは出来ませんが、毎月の滑稽俳句協会報を熟読、味わいながら、滑稽俳句における滑稽という感性を磨いて行きたいと思っています。

【代表句】

余白なき自分史照らす春灯
双手もて天を押し上ぐ花衣
魔性秘むことを知らずや紅い薔薇
人生にカーナビはなし昼の月
初夢やガラスの靴を見失う